



眞下 和宏さん (8期生)
高崎市等広域消防局 消防局長・消防正監
高崎市役所二高会 会長

被災者の救援救助に向かいながら職員の無事を願う

消防団で活動していた父の姿にあこがれ、小学生のころから将来は消防署の職員になるのが夢だった。大人になって夢を実現すると、地域の安全を守る使命感に生き甲斐を感じた。消防署には消防隊、救急隊、特別救助隊と3種類の隊員がいる。眞下さんは、はしご車が導入されたとき、オレンジの服を初めて着た特別救助隊の1期生。災害に備え体力トレーニングや訓練などに励んできた。

現在は、正規職員410名という消防局の頂

点に立ち重責を担う。東日本大震災の際には群馬県の緊急援助隊として一部の隊員を出動させたが、警戒区域への隊員の出動には、すぐにゴーサインを出せなかった。確かな情報もないまま隊員たちの命を危険にさらすことはできないからだ。「隊員たちの無事を願う毎日です」と思いは職員全員に向かう。

また、眞下さんは高崎市役所とその関連団体の同窓生で組織する「市役所二高会」（会員200人以上）の会長でもある。



中澤 昭憲さん (10期生)
ペルー国外人大学 教授
ニクシータ文化協会 会長

積極的に冒険して自分の世界を広げる

農大二高在学中は課外活動に汗を流した。中でも同期の樋口君の対抗馬として、生徒会長に立候補して落選したことは、今でも素晴らしい思い出となっている。

大学卒業後は世界を見たいとの思いからテレビの海外取材班のスタッフとしてヨーロッパを一年間取材旅行した。そして、理解するには住んでみなければと、国際交流基金の日本語教師養成講座に通い、一年後に国立ナポリオリエンターレ大学の講師に採用された。

国際交流基金の事務局は当時24歳だった私に「今までこんな若い人を海外に出したことはなかったが、イタリアの大学の要望だから仕方がない」と送り出してくれた。それから約30年、国立ナポリオリエンターレ大学、国立ローマ大学の講師を経て現在はペルー国外人大学の教授として教鞭をとる。勉強嫌いな男が大学の教授をしているのだから、人生は分からない。農二生たちには、積極的に冒険して人生を精一杯謳歌してほしい。(自談)



三村 治さん (18期生)
高崎市教育委員会委員長
三村工業(株) 取締役建築部長

子どもたちのために、できることは何でもやろう

今年の10月に、第18期生の三村治さんが高崎市教育委員長に就任した。47歳の教育委員長は、全国でも異例の若さだ。

三村さんは、高崎青年会議所の理事長時代に教育問題に取り組んだことが縁で、PTA活動に飛び込んだ。「子どもたちのために、できることは何でもやっとう」と群馬県や高崎市のPTA連合会役員を歴任し、平成20年に高崎市教育委員会委員に選ばれた。持ち前のフットワークを発揮し、現場で流した汗がエネルギーになっている。

また、農二保護者会・第一学年の部会長をつとめ、役員の方々といっしょに「チームAみーGO(あみーご)」と銘打って積極的な活動を展開中だ。10月に開催した保護者研究大会では、高崎市の飯野眞幸教育長を招いたシンポジウムが好評だった。

農大二高で過ごした高校時代の思い出は、三村さんの大切な財産になっているそうだ。アメリカでのホームステイや、甲子園で踊った「大根踊り」は忘れることができない。



新井 潔さん (24期生)
子どもを対象に野球塾を主宰

夢をもって努力する大切さを子どもたちに伝える

本田技研(現ホンダ)を経て、ドラフト4位でヤクルトに入団。横浜、オリックスと通算12年間プレーをした。その後、古巣の本田でヘッドコーチを務め、都市対抗野球出場に貢献。指導者としての手腕を買われ、独立リーグに在籍し、子どもたちのアカデミーコーチをする傍ら、昨年は兼任で野手コーチを務め退団。現在は念願だった野球少年の育成に汗を流す。県内各地で出張無料野球教室を行ない、2拠点で野球塾を開講している。

「全員がプロ野球選手になれるわけではないが、夢をもって努力する大切さを伝えたい。野球を通じてでなければ伝えられないことがある」と、新井さんは技術だけではなく、礼儀、挨拶、感謝の心、道具を大切にすることなども厳しく指導する。子どもたちの中には、農大二高OBの子息もいる。入塾したときには、声も出せなかった子が大きな声で挨拶をする。心技体の全てに上達していく子どもたちの姿が何よりの喜びとなっている。



野中 芙美さん (36期生)
沖縄県病院事業局県立病院課勤務
精神保健福祉士

あこがれの地で、精神科ソーシャルワーカーとして働く

高崎市内にある相談支援事業所で精神保健福祉士として5年ほど働いた後、沖縄県の職員募集に応募し、精神科病院で引き続き精神保健福祉士として職務に励んでいる。修学旅行で行った沖縄のイメージが良く、こんなところに住みたいという思いがあった。そして、社会人5年目で環境を変えるのは今、と思ったときに見つけたチャンスだった。

沖縄に来てそろそろ丸2年が経つ。のんびりした県民性は、自身の性格にもぴったりで

居心地がいい。美しい海辺を見ながら走る那覇マラソンには友人と一緒に参加する。

仕事面では、療養している患者さんの退院促進に取り組み、一人でも多くの自立に貢献したいと意欲に燃える。東日本大震災の被災地へ、沖縄県の「心のケアチーム」として派遣された。一人ひとりに言葉掛けをし、じっくり耳を傾けた。ただ寄り添うだけでも癒しの大きな力になることを実感し、今後の活動に大きなヒントとなる貴重な体験だった。



松本あゆ美さん (40期生)
キャスター・タレント

テレビでお馴染みのお天気キャスター。応援ヨロシクお願いします

500倍の難関を突破して気象予報社が募集したお天気キャスターの座を射止めたのが、日本女子大学理学部数物科の3年生のとき。現在は、TBS『情報7daysニュースキャスター』(毎週土曜22:00~)でお天気キャスターとして活躍中。ミス日本女子大にもなったルックスの良さと、ビートたけしとの天然な(?)やりとりが茶の間にウケて人気者に。また、テレビ東京『ゴルフ宮里道場』への出演をきっかけに始めたゴルフの腕を磨

くため、しばしば帰郷しゴルフ場に足を運ぶ。政治・経済・スポーツからお笑いまで、常に情報は幅広くチェックするよう心がける。

「物事をしっかり理解し、自分の言葉で伝える。自分というフィルターを通して、視聴者の皆さんに情報を届けることにこだわりたいです」と話す。さまざまな経験を通じ、自分を磨けるキャスターの仕事は、松本さんにとってまさに天職のよう。ちなみに、松本さんは、松本校長の親戚にあたる。

同窓生のお店・会社紹介

welcome to my shop

株式会社 深野衣裳店



深野 誠一さん (5期生)
本店和装館/高崎市山田町67番地
ル・チェレ/高崎市鶴見町3-12 1F
TEL 027-322-2686 ホームページ <http://hukanoisyo.co.jp>

深野衣裳店は創業38年の高崎を代表するファミリーレンタルショップ。「より良いものを、より安く」を经营理念とし、全てのお客様に満足していただけるようスタッフ一同明るく楽しいお店作りを目指している。婚礼衣裳をはじめ、初着から長寿祝い着まで人生の節目となる記念日を衣裳でサポートしてくれる。

洋装館ナージャ/高崎市高砂町28-11
本庄店/本庄市中央2-3-20

だんべえ本舗 風間堂



風間 隆之さん (18期生)
高崎市新田町1-8
TEL 027-326-7811

明治38年創業の老舗和菓子店だんべえ本舗風間堂。お店を継いで今年で20年になる隆之さんが、常日頃心がけていることは、「古いことを大切にしつつ、新しいことにチャレンジする」ということ。店内に並ぶ数多くの和菓子の中でも自慢の一品は、『だんべえまんじゅう』で、上白糖を使用した白色と黒糖でできている茶色の2種類を用意している。地元で長い間愛されている一品。昨年の50周年式典で配られた「武揚くん」のどら焼きも作った。現在、保護者会会長。

御菓子司 おゝみや



大塚喜一郎さん (29期生)
高崎市下室田町1068
TEL 027-374-0075

約60年続く老舗御菓子店の3代目になる大塚喜一郎さん。御菓子司おゝみやといえば、こだわりで作る自慢の「かりんとうまんじゅう」。1個90円とリーズナブルで、一日2000個から3000個売れる大人気商品。平日でも、夕方に完売することもしばしば。週末は、県内はもちろん遠方からわざわざ足を運ぶ客も多い有名店。他にも、店内には約20種類の御菓子が並び、季節によって彩りが変わる。『チーズうさぎもち』などもお勧め。水曜定休。

Sangam (サンガム)



大澤 和樹さん (34期生)
高崎市巾居町2-6-25
TEL 027-386-4846

2008年12月にOPENしたSangam。オーナーの大澤さんは、昔から音楽好きで民族音楽や前衛音楽を楽しめる場を地元で提供したいという思いから創業した。カフェとバー、ライブハウス、アートパフォーマンスやアート作品の展示販売など、様々なジャンルで楽しめる斬新なお店。有名アーティストも出演するルーツミュージックイベントは、満員で入店できないこともしばしば。料理では、本場のスパイスを使用したこだわりのグリーンカレーがお勧め。